

福岡記念病院の 腹腔鏡下手術

体の負担を抑え、早期の回復と安心に繋がる低侵襲手術

手術の創（ポート）の違い



開腹手術

お腹を大きく切開じます。



3ポート式

3か所の小さな穴から手術を行います。



4ポート式

4か所の小さな穴から手術を行います。



小さな傷で行うため、痛みが少なく、回復が早いことが期待できます。

2025年度 消化器外科手術件数



開腹手術：

231件



腹腔鏡下手術：

156件

対象期間：2025年4月～2026年3月

対象：消化器外科で実施した手術

安心して受けていただく消化器外科

当院は地域支援病院、救急医療を行っているため、消化器外科では緊急を要する手術が多いです。中には危急な状態での手術になることもあります。周術期は、救急科（初期対応）、麻酔科（術中管理）、集中治療科（術後全身管理）などの他科と連携し、手術治療をより安全に行うことを心がけています。傷が小さく、手術侵襲が少ない腹腔鏡下手術も行なっていますが、当院での腹腔鏡手術は消化器外科手術の全体の約3割程度です。患者の容態や安全性を検討した上で体への侵襲が少ない腹腔鏡下手術の適応を決定しています。



当院の特徴

当院の消化器手術に関しては、できるだけ早く対応し、手術までの待機時間を短くできるように心がけています。
一人一人に合った治療法を検討し、より多くの地域住民に貢献できるように体制を整えています。消化管手術に関して、ご不明な点がありましたら、お気軽にご相談ください。

腹腔鏡下手術の特徴

はっきりした視野

開腹手術の肉眼観察より、拡大された映像による近距離での細部観察が可能

出血量が少ない

CO₂による気腹で圧迫止血効果が得られるため、開腹手術と比較して出血量が少ない傾向。

体への負担が少ない

腹壁へのダメージが少なく回復が早いため、退院までの日数が開腹手術より短い傾向。
5~10mmほどの小さな傷が数か所で手術を行うため傷が小さい、回復が早い、入院期間が短いメリットがある

注意点：手術の適応や方法は、炎症の程度・癒着の有無・年齢・全身状態などにより異なります。安全を優先し、開腹手術へ変更する場合があります。※入院期間はあくまで目安です。詳しくは診察時に医師へご確認ください。

腹腔鏡手術の主な対象疾患



腹腔鏡手術の主な対象疾患

胆石症・虫垂炎・胃/結腸疾患・鼠径ヘルニアなど

胆のうは取っても大丈夫？

胆のうは胆汁をためる袋
摘出しても胆汁は肝臓から直接腸へ流れるため、
多くの方は日常生活に大きな影響はありません

胆石は意外と多い？

日本人の約10人に1人に胆石があるとされています。ただし、症状が出ない人も多く、検査で偶然見つかることもあります。

